

令和6年度 学校評価シート①

八峰町立峰浜小学校

R7年3月6日(木) 報告

評価項目	学習指導
------	------

重点目標	「成長実感」をキーワードに、峰小授業スタイルの継承・改善による授業力向上を図り、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する。	P
現 状	・児童の確かな学力を保障する基本的な授業スタイルの継承・改善と教師のキャリアステージに応じた資質・授業力向上が必要である。	
具体的な目標	○成果と課題を定期的に分析し、県の学習状況調査で県平均を上回る。 ○キャリアステージに応じた各種研修実施と授業実践積み重ねにより、授業力を向上させ、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する	
目標達成のための方策	○キャリアステージに応じた各種研修の計画的実施と研修内容共有。 ○後半重視型である「峰小授業スタイル」の実践と検証、改善。 ○分かる授業につながるICT機器の積極的・効果的活用。 ○板書・ノート指導・話型活用・月別強化事項などの共通実践。	

具体的な取組状況	○ICT機器の効果的活用を模索した。タブレット端末と電子黒板を組み合わせ、児童が主体的に考えを出し合い、学び合う授業が定着してきた。 ○本校の強みである峰小授業スタイルの継承・改善を推進し、教師の「コーディネート力向上」をテーマに全教員が研究授業と見合う授業を行っている。児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、前半をシンプルにし、後半を重視する授業展開が一般化してきている。 ○ベテラン教師を講師に実践指導講習を実施した。若年層教員には、学習会を組織したり、他校の授業を参観させたりして授業力向上を図っている。	D
達成状況	○6年生の全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回った。また、質問紙の回答でも前向きで良好であった。 ○授業の型を意識し、若年層教員で学習グループを作って、学び合いや相談の場とした。不明なことや不安なことは互いに共有し、確認し合うことで、ICT活用や板書、ノート指導、話型活用などの共通実践事項が着実に実施できた。	

自己評価	(評価) A	○県学習状況調査の結果では、4～6年生の全学年、全教科が県平均を上回り、学習の定着状況はとても良好であった。前年度の課題を共有できたことが大きい。 ○「学び合い」を重視した峰小学習スタイルで各教師がICT活用などを工夫して活発な授業を展開できた。教師のコーディネート力向上など、特に若年層教員に授業改善の成果が顕著に見られた。	C
------	-----------	--	---

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	「峰小授業スタイルの継承・改善」という意識を職員全体で共有したことにより、ベテラン・若年層を問わず、一定水準の授業が継続的に実施できている。各種学習調査では学習の定着状況が良好であり、ICT機器活用や楽しくて分かる授業の工夫もされている。今後も、児童が見通しをもってじっくり考える授業を継続して行ってほしい。	C
------------	---	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	本校が継続的に取り組んできた「峰小授業スタイルの継承・改善」は、今後も大切にしていきたい。教員の年齢構成がベテラン層と若年層に分かれている傾向は今後も続くことが予想されるので、指導技術や心構えなど、確実な継承を推進しつつ、ICT機器活用や新しい指導方法などに柔軟に対応し、更に「楽しく、分かる授業」を実践的・協働的に追究していきたい。	A
-----------------------	---	---

令和6年度 学校評価シート②

八峰町立峰浜小学校

R7年3月6日(木) 報告

評価項目	生徒指導
------	------

重点目標	児童の主体性を育み、学校生活や児童会、学級活動の充実を図る。	P
現 状	・全校児童の仲がよく、素直で課題にしっかり取り組む児童が多いが、意見や思いの主張を苦手とする児童も見られる。	
具体的な目標	○元気な挨拶と返事を推進し、学校生活や児童会、学級会等で児童の主体性を生かす多様な活動と自己決定の場面を多く設定する。 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と答える児童の割合が90%を超えるようにする。	
目標達成のための方策	○考えの発表、自己決定の場を保障した児童会・学級会活動の充実。 ○多様な人材とふれあう活動、縦割り班活動の積極的活用。 ○各種調査（QU、児童アンケート）を活用した課題把握と早期対応。 ○心を育てる道徳授業の充実と挨拶運動の推進。	

具体的な取組状況	○6年生のリーダーシップが各方面で効果を発揮できるよう、児童会活動や縦割り班の活動を活発化を図った。まずは、朝や帰りの挨拶活性化について、強調週間を設け、児童会総会で話合いの場を設けることで、挨拶が気持ちよくでき、活気ある学校作りを推進する。 ○児童が自己決定できる場を多く設定し、教師が事前と事後の指導・支援を丁寧に行って児童が主体・主役となる学校作りを進める。	D
達成状況	○異なる学年とも交流が活発で、授業や各種集会、学校行事、縦割り班清掃で元気な声が響き、考えや感想の交流が活発だった。 ○児童数の減少により学級の人数差が大きくなっている。多様な考えや個性に触れる機会が増えるよう、他校との交流や様々な学習形態を工夫することによって課題克服を図る必要がある。	

自己評価	(評価) B	○全校の仲がよく、委員会や縦割り班活動などで高学年がリーダーシップを発揮し、児童が主体的に学校生活を改善していく取組が多く見られ、効果を上げた。 ○97%の児童が児童アンケートで「学校生活が楽しい」と答えていた。一方、小さなトラブルや誤解などで悩んだり、自力解決できない児童も多く、困難に打ち克つ強さをいかに育てていくかが今後の課題である。	C
↑ 評価基準 ↓			

↑ 評価基準 ↓
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	児童の明るく元気な挨拶と返事、生き生きとした姿が行事や地域での活動でたくさん見ることができた。学校生活で児童が自分たちで考え、決定している場が多く、アンケートでは、ほとんどの児童が「学校が楽しい」と答えている。児童のトラブルに保護者と連携して対応するなど、中には、難しい課題もあるが、丁寧に根気強く解決にあたってほしい。	C
↑ 評価基準 ↓			

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	児童数減少により、他者と進んで関わったり、多様な考えや価値観にふれる機会が減少してきている。まずは明るく元気に挨拶や返事をする大切さを継続して指導・支援したい。相手の考えや立場を尊重しつつ、自分の思いや考えをしっかりと伝え、問題があった場合には正しく対処し、解決できる児童を育成したい。また、児童に関わる様々なトラブルの未然防止に努めるとともに、発生した場合は早期に事実確認し、チームで連携して解決に努めたい。	A
------------------------------	---	----------

令和6年度 学校評価シート③

八峰町立峰浜小学校

R7年3月6日(木) 報告

評価項目

ふるさとキャリア

重点目標	「まちに学び、まちを思う」ふるさと教育・キャリア教育を充実させる。	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が年々減少している。地域素材・人材の豊かさに気付き、自らや地域の可能性と将来を思う教育活動が期待されている。 ・コミュニティ・スクールの機能や充実したICT環境の強みを生かしたふるさと教育・キャリア教育の工夫が求められている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年でふるさと教育・キャリア教育を意図的・計画的に行う。 ○地域素材・人材を効果的に活用し、体験的で多様な学習を展開して、ふるさとのよさを感じ取り、地域の将来を考える意識を高める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の思いやアイデアによる地域PR活動・販売活動・収穫感謝の会など多様な活動を地域・保護者を巻き込んで実施し、地域のよさや可能性に主体的・積極的に向き合えるようにする。 ○「俳句の学校」の伝統を継続し、俳句づくりを通して地域のよさや児童の優れた感性を様々な学習活動と関連付けて情報発信する。 ○多様な活動の成果や課題を蓄積し、地域や保護者とも共有する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、地域の方々、専門的な知見をもつ方々との交流を工夫し、集大成として全学年参加の「峰小ふるさと学習Day」を実施する。 ○3年生は、峰浜梨の果樹農家から継続的に学んだ。峰浜梨の魅力を地域にアピールするのぼり旗を作成し、各地で利用してもらう。 ○4年生は、町観光協会の協力でラベンダーを観察・収穫した。これをサシェにし、販売する。また、カミツレの栽培についても学ぶ。 ○5年生は、JA青年部の協力で田植えをし、八森小と合同で稲刈りを体験する。米を商品化し、PR方法などを工夫して販売する。 ○6年生は、JA青年部の協力を得て菌床椎茸の栽培に挑戦する。農家の工夫や苦労などについて学び、体験して、椎茸を商品化して販売する。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「親子でジオ体験」「雄島花火での鼓笛演奏」「小中連携奉仕活動」「幼少交流体験」など、地域に学び、地域に元気を届ける活動を推進する。「峰小ふるさと学習Day」では、低学年は、校内に保護者を招き、収穫したサツマイモや梨を味わう体験を行う。高学年は、八峰中にブースを設け、販売を通して学びの成果を地域にアピールする。 ○魅力的で豊かな地域素材を学びに生かし、多様な人材を活用した特色ある学習を展開する。誇りをもって仕事をしている方々の考え方や生き方に直接、ふれることを通して、キャリア教育の充実を推進する。 	
自己評価	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>○地域に学ぶだけではなく、地域に元気を届けるという視点で、保護者や地域を巻き込む活動を推進した。児童の意欲を大切にし、主体的・体験的に多くの人々と関わる学習が展開できたことで、地域のよさや人の役に立つ喜び、自分のよさや可能性を実感させることができた。</p>	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">A</p> <p>各学年ごとに地域の特色やよさ、多様な人材とじっくり触れ合えるようなふるさと・キャリア教育を工夫している。受動的に学ぶだけでなく、販売活動や地域に貢献する活動を積極的に推進し、元気を届ける役割も担っている。児童が充実感をもって地域に関わる学校教育を今後も期待したい。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>豊かな自然と多様な産業、協力的で熱心な地域人材に恵まれた峰浜地区で、意図的・計画的・系統的にふるさと・キャリア教育を推進することができた。学習の成果が地域のよさへの気付きや、人の役に立つ喜び、自分の可能性実感につながるよう指導・支援していきたい。また、児童自らが「地域のために何ができるか」を考え、具体的な行動ができるよう教育活動を積極的に工夫していきたい。</p>	A